

1. 第2次佐久市健康づくり21計画中間評価にあたって

本市では世界最高健康都市の構築に向け、平成28年3月に「第2次佐久市健康づくり21計画」(計画期間:平成28年度～令和4年度)を策定し、総合的な健康づくりを推進している。計画の進捗を確認し、着実な推進を図るため、中間年となる令和元年度に中間評価を実施し、目標の達成状況や課題を把握することで、最終年度へ向けた取組みを図る。

2. 中間評価の方法

市民アンケート調査や統計データなどを基に、5分野17項目の指標、全62項目について評価を行った。

区分	判定基準
◎	目標値に達している
○	目標値に向け改善傾向にある
△	策定値とほぼ同じ
×	悪化している
—	評価困難

3. 健康指標の達成状況

[中間値と目標値及び計画策定値との比較]

分野	評価項目数	◎	○	△	×	—
1 生活習慣病の発症予防と重症化予防						
(1)がん	11	5	6			
(2)循環器疾患	7	3	1		3	
(3)糖尿病	2				2	
(4)慢性閉塞性肺疾患	1			1		
2 生活習慣及び社会環境の改善						
(1)栄養・食生活	8	4	1	1	2	
(2)身体活動・運動	2	1	1			
(3)休養	1				1	
(4)飲酒	2				2	
(5)喫煙	1		1			
(6)歯・口腔の健康	5	4			1	
3 社会生活を営むために必要な機能の維持・向上						
(1)こころの健康	3	2			1	
(2)次世代の健康	4	1	1		2	
(3)高齢者の健康	3	2				1
4 健康を支え、守るための社会環境の整備						
(1)地域の絆による社会づくり	3	2			1	
5 食育の推進						
(1)生涯にわたる食育						
(2)健康長寿を実現する食育	9	1	6		2	
(3)佐久地域の食の理解と継承						
評価合計	62	25 (40.3%)	17 (27.4%)	2 (3.3%)	17 (27.4%)	1 (1.6%)

健康指標の達成状況が「目標達成」及び「改善傾向」と評価した項目が、全62項目中42項目(全体の約68%)となっている。一方、「横ばい」及び「悪化」と評価した項目が、全62項目中19項目(全体の約31%)となっている。計画の最終年度へ向け現状を分析評価する中で、今後の取組みをさらに推進し、目標達成を目指す必要がある。

4. 主たる項目の評価結果(一部抜粋)

○特に改善が見られた指標



GOOD!

[身体活動・運動]

◆主な指標:「1日1時間以上の運動の実施がないものの減少」(運動をしない人の減少)

【目標値 33.7% 策定値 37.0% 中間値 32.8% ➡達成】

◆主な取組み:市内運動施設一覧や市内ウォーキングマップを作成し、市役所窓口への設置や市ホームページへの掲載、保健補導員へ周知を行った。

◆今後の取組み:将来も活動的な生活を送るために、ピンピン講座やウォーキング活動などの運動習慣の定着における取組を継続していく。

[歯・口腔の健康]

◆主な指標:「歯科医院等で定期的に歯科健診を受ける人の割合の増加」

【目標値 38.6% 策定値 35.1% 中間値 41.7% ➡達成】

◆主な取組み:歯周病健診、まちづくり講座、いきいきサロン、健診結果報告会等の参加者に対し歯と口腔の健康の啓発を行った。

◆今後の取組み:2歳児歯っぴー教室や、小中学生だけでなく保育幼稚園の年長児まで拡大したフッ素洗口事業など、現在実施している各種事業を積極的に行い、歯と口腔の健康を保つための取組を継続していく。

[高齢者の健康]

◆主な指標:「第1号被保険者の要介護(要介護1以上)認定率の増加の抑制」(要介護になる人の減少)

【目標値 14.5% 策定値 14.5% 中間値 13.0% ➡達成】

◆主な取組み:「介護予防・日常生活支援総合事業」を開始し、高齢になっても活動的で、いつまでも健康で過ごせるように介護予防事業等の充実を図ったほか、地区サロンでの講話や認知症サポーター養成講座などを実施した。

◆今後の取組み:地区サロンやおたっしや訪問などの取組みの継続や、現在実施している事業の内容の充実と自立支援に基づいた個々に応じたサービス提供が行えるよう、ケアマネジメントの強化を図っていく。

[地域の絆による社会づくり]

◆主な指標:「保健補導員会の地区自主活動の参加者数の増加」

【目標値 6,300人 策定値 5,762人 中間値 6,324人 ➡達成】

◆主な取組み:保健補導員会では地区担当保健師と保健補導員との連携により、全地区において地区自主活動が実施され、参加者も増加した。

◆今後の取組み:特に若い世代の参加者増加のため、内容に若い世代の健康増進に関するテーマも取り入れられるよう、保健補導員に対し、他の地区の取組みを紹介するなどの支援をしていく。

○今後特に取組みが必要な指標



BAD...

[循環器疾患]

◆主な指標:「メタボリックシンドロームの該当者及び予備群の減少」

【目標値 18.7% 策定値 25.1% 中間値 28.0% ➡未達成】

◆主な取組み:電話や通知による特定健診等の受診勧奨や、健診結果報告会で個別保健指導や特定保健指導を実施した。市民を対象とした生活習慣病重症化予防講演会を年2回開催した。

◆今後の取組み:現在の取組みを継続するとともに、メタボリックシンドローム該当者及び予備群の方へは、個々の生活状況等を踏まえた行動変容につながるような指導を行い、健康寿命延伸のための食事や運動などの生活習慣改善や重症化予防を推進していく。

[糖尿病]

◆主な指標:「HbA1c^{*}6.5%以上の人の割合の抑制(40~74歳) (HbA1c6.5以上の人の減少)

※HbA1c(ヘモグロビンエーワンシー)…糖がくっついた赤血球の割合

【目標値 8.7% 策定値 7.7% 中間値 8.9% ➡未達成】

◆主な取組み:血糖値やHbA1cが高値の方へ、電話や通知による医療機関への受診勧奨や個別保健指導を実施した。

◆今後の取組み:電話や訪問による特定健診の受診勧奨や、糖尿病性腎症重症化予防プログラムに沿った医療機関との連携指導等の現在の取組みを継続する。糖尿病の発症予防のため、健診結果報告会等で高血糖をテーマにした講演会を取り入れていく。

[次世代の健康]

◆主な指標:「朝食を毎日食べている子どもの割合の増加(小学5年)」

【目標値 86.1% 策定値 82.3% 中間値 77.3% ➡未達成】

◆主な取組み:小学校においては、給食センターと連携し、食育を実施した。また、保育園、子育てサロン等において、食育ボランティアによる食育活動として、人形劇等を実施した。

◆今後の取組み:現在行っている食育活動を継続し、親の影響が大きい時期であるため、子どもだけでなく保護者や祖父母へも活動を広める。朝食の重要性や簡単にとれる朝食メニューの紹介などの保護者へ向けたチラシを保育園や学校へ配布し、より広い範囲へ普及啓発できるよう情報発信していく。

5. 総評

全体を通し多くの指標で目標達成及び改善がみられたが、「循環器疾患」「糖尿病」「休養」「飲酒」「次世代の健康」の項目では改善がみられない内容もあり、今後重点的に取組みを強化していく必要がある。全ての市民が生涯を通じて健やかで心豊かな生活を送ることができ、今後も健康長寿都市であり続けられるよう、健康格差の縮小を最終目的として、課題を明確化し目標値の達成に向けた取組みを進めていく。